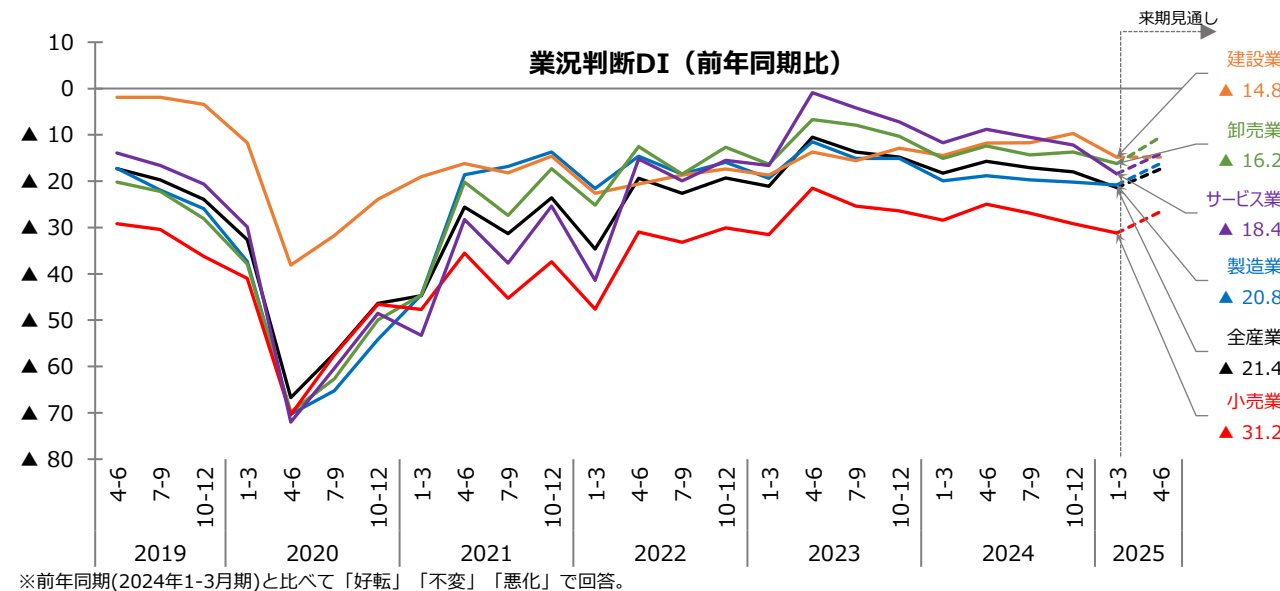


第179回中小企業景況調査（2025年1－3月期）のポイント

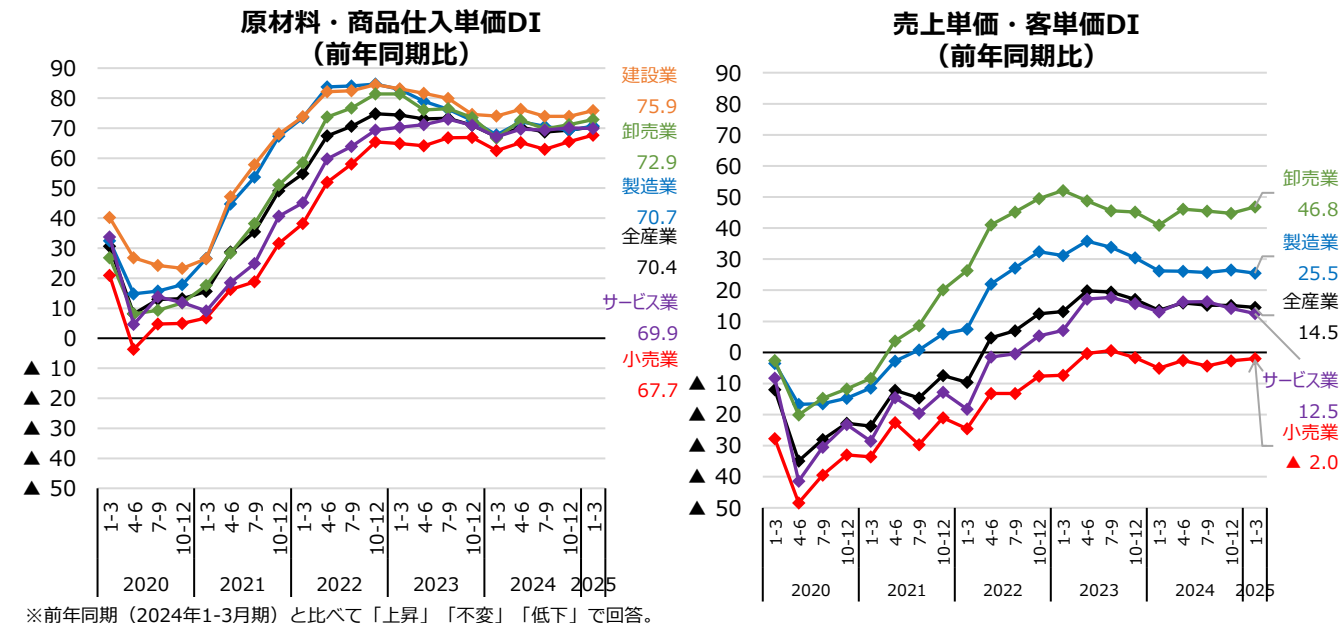
1. 業況判断DIは、3期連続して低下

全産業の「業況判断DI（前年同期比）」は、前期（2024年10-12月期）から3.4ポイント減（▲21.4）と3期連続して低下している。産業別では、サービス業で6.2ポイント減（▲18.4）、建設業で5.1ポイント減（▲14.8）、卸売業で2.5ポイント減（▲16.2）、小売業で2.0ポイント減（▲31.2）、製造業で0.6ポイント減（▲20.8）と低下している。



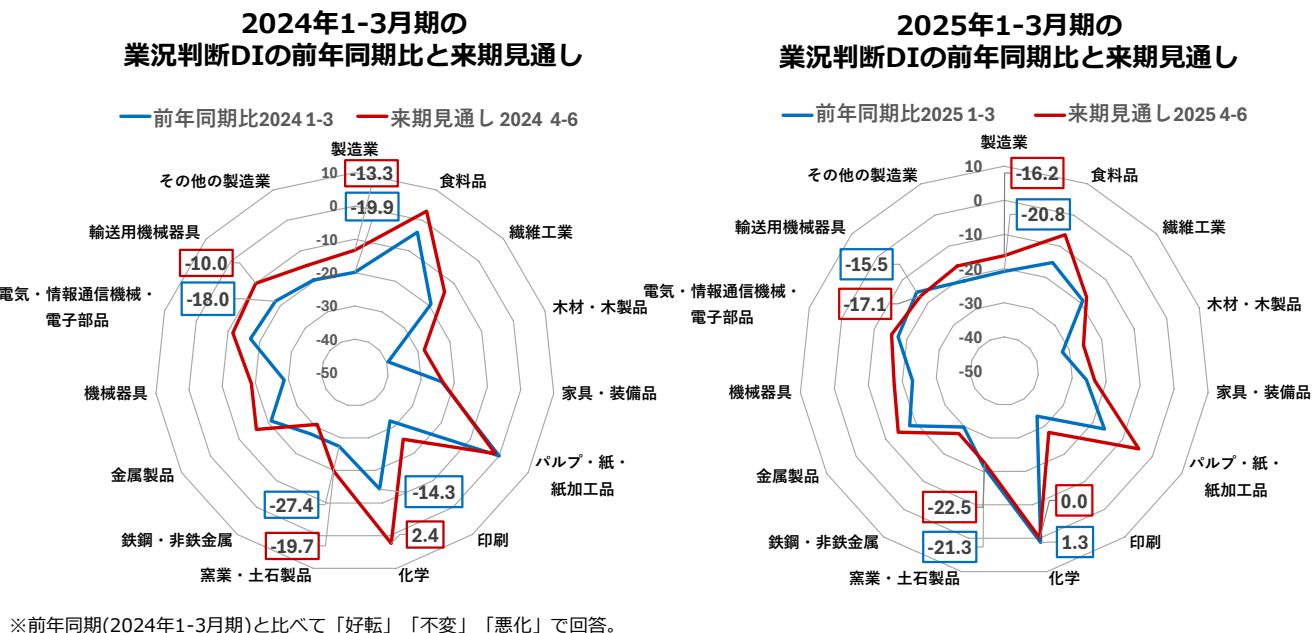
2. 原材料・商品仕入単価DIは、高水準が続く

「原材料・商品仕入単価DI（前年同期比）」は、「売上単価・客単価DI（前年同期比）」に比べ高水準となっており、いずれの産業も高止まりの状態が続いている。一方、「売上単価・客単価DI（前年同期比）」は、小売業は▲2.0（0.7ポイント増）と改善したものの、小売業のみがマイナス圏にとどまっている。



3. 製造業の一部業種で、来期への期待感が低下

製造業の業況判断DIにおける前年同期比と来期見通しの差（DIギャップ）は、今期と2024年1－3月期を比べると縮小している（左右図表の赤枠と青枠の差分）。特に、輸送用機械器具、化学及び窯業・土石製品において、来期見通しが前年同期比よりも下回っており、先行きの不透明感が表れている。



4. 中小企業のコメント

◆国内外の経済動向が不透明な状況にあり、半導体関係以外は需要を見出すことが出来ない。需要の停滞感の中で賃上げ圧力が本年度も厳しく迫られている。危機感を持って売上向上のため営業に取り組まなければならない。[自動車製造業]

◆受注残の消化により売上が減少し、業界全体も低迷中。先行き不透明感が強く、アメリカの関税政策など世界情勢の悪化が懸念材料となっている。[その他のガラス・同製品製造業]

◆観光立地にある当店は、季節の変動により、来店客数が左右される。1月に入り雪の日が多く、昨年より売上が悪かった。また、原材料・光熱費等が高騰しているため、利益も昨年より悪い。[その他のパン・菓子製造業]

◆受注工事は増えても人手不足が問題です。人手不足により受注したくてもできない工事もあります。また、天候に大きく左右され、今年の大雪により痛手を負っています。[一般土木建築工事業]

◆値上げ交渉を重ね、売上は増加しているものの、全体的なコストアップを補うに至らない状況が続いている。今後も更なるコストアップが予想され、厳しい状況は続く。[その他の食料・飲料卸売業]

◆卵業界は鳥インフルエンザで卵不足となり、価格が上昇しているが、我が社はブランド卵として影響はない。ただし、従業員の高齢化が進んでおり、従業員の確保に悩むところがある。[卵・鳥肉小売業]

◆地震の影響や物価高騰が続き、それぞれの家庭で節約を余儀なくされていると感じている。財布の紐が固くなり、サロンの売上が伸びず不安な日々を送っている。[美容業]

◆熟練技術者の確保や流出防止に苦心しつつも、業界での連携を大切にし各種会合に積極的に参加している。お客様との不定期な打合せも信頼づくりのチャンスと捉えている。[情報処理サービス業]

【調査要領】
1.調査時点 2025年3月1日時点
2.調査対象 中小企業基本法に定義する全国の中小企業（調査対象企業数18,758、有効回答企業数17,654、有効回答率94.1%）
3.自由回答数 5,009件（上記の他、「中小企業景況調査報告書」p.11、「中小企業景況調査資料編」pp.79-80に掲載）
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入することから、各企業が抱える課題が表れている。